

豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成に向けて

— 体育授業における「男女共習」について —

令和4年度より高等学校において年次進行で新学習指導要領がスタートします。今回の改訂では、**体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会である**ことから、原則、男女共習で学習を行うことが解説に示されています。スポーツを通じた共生社会の実現を図るため、性別に関係なく一緒にスポーツを楽しむことができるよう、指導内容の充実を図ることが求められています。

今、なぜ男女共習が必要なのか

～東京2020大会の記憶を、東京を支える次世代に刻み込む～

2020年の東京大会は、「多様性と調和」を基本コンセプトの一つとし、かつてないほど共生を重視した大会となりました。競泳、卓球などの競技では、「男女混合」9種目が新たに採用され、スポーツを取り巻く環境の変化を感じさせる大会となりました。これからの学校体育においても、共生の意義について考えることが大切です。

● 学習指導要領上の位置付け

高等学校学習指導要領（抜粋） 第2章 各学科に共通する各教科 第6節 保健体育
第3款 2

- (3) 体力や技能の程度、**性別や障害の有無等にかかわらず**、運動の多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう留意すること。

【実施に当たっての留意点】

「陸上」「バドミントン」「ダンス」などの身体接触の少ないスポーツは、比較的実施しやすいですが、「柔道」「バスケットボール」「サッカー」などの接触の多いスポーツでは、安全に関する指導の充実を図るため、ペアやグループの編成に配慮等、指導方法を工夫し、男女共習を進めることが大切です。

また、「水泳」については、心身ともに発達が著しい時期であることから生徒や保護者に丁寧に説明する等、理解を得ることが必要です。



各領域における実施上のポイント

【体づくり運動】

- ペアやグループの編成に配慮が必要

【器械運動】

- 体格差等がある場合には、補助の人数を増やす等、補助の方法を工夫

【陸上競技】

- ハードル走を行う際は、複数のインターバルやハードルの高さを設定し、個々の能力に応じて選択

【水泳】

- 泳法を身に付ける学習を行う際、状況に応じてペアを組ませるときは、配慮が必要

【球技】

- ゲームを行う際は、ルール等を工夫して実施

【武道】

- 二人一組で技能を習得する学習では、体力や技能の程度を踏まえ、配慮が必要

【ダンス】

- ペアやグループの編成に配慮が必要



生徒、教師ともに、男女共習の意義を理解し、どのように工夫すれば活動できるのかを考えることが重要です。男女共習は、「他者を認め、理解する」「互いに協力・助け合う」「よりよい人間関係を構築する」などの道徳性や人間性も身に付けることができ、多くの教育効果が期待できます。

男女共習に関するQ&A

Q 必ず、男女共習で授業を行わなければいけないのか。

A 教員が、生徒の実態を踏まえ、男女共習の視点を取り入れた年間指導計画を立案することが大切です。また、男女共習の意義や価値を理解しているか、振り返ることが必要です。

Q 種目によって男女別と男女共習を検討している。種目によって分けてもいいのか。

A 学校、生徒の実態を踏まえ、男女共習の方法を検討し、可能な範囲から始めていくことが大切です。

Q 1時間の授業の中で、全ての学習場面において、男女共習で行わなければいけないか。

A 生徒の実態や競技の特性を踏まえ、男女共習で実施できる活動を可能な範囲から始めていくことが大切です。

Q 男子は柔道・剣道、女子はダンスを選択させている。今後、個々の生徒が選択する方がよいのか。

A 性別で種目を決めるのではなく、生徒が中学校での学習を基盤として、更に追求したい種目や課題を克服したい種目など、生徒の個々の意思を尊重することが大切です。

Q 水泳など男女共習だと嫌がる生徒がいた場合、どのような対応が必要なのか。

A 心身ともに発達著しい時期であることを踏まえ、生徒や保護者に丁寧に説明し、理解を得ることが大切です。

Q 男女共習で実施した場合の評価はどのように評価すればよいのか。

A 学習指導要領に定める目標に準拠した評価を実施することが大切です。

Q 男女共習は、新2・3年生においても実施しなければならないのか。

A 新2・3年生は現行の学習指導要領に基づいて行いますが、新2・3年生においても男女共習で授業を行うことは可能です。